

第47回 弟子屈高校強歩遠足



教育委員 菅原 誓之

去る、10月9日(日)弟子屈高校の強歩遠足が復活した。これまで新型コロナウイルスの影響で2年連続にわたり規模を縮小して開催していた。しかし今年は雨天にて1日の延期となったが、弟子屈高校の伝統が3年ぶりにまた歩み始めた。今回の強歩遠足実施にあたり、様々な協議が重ねられたようだ。本来であれば夜間に学校を出発する70kmと朝に川湯温泉駅前から出発する35kmの2コースがある。しかし協議の中で、生徒減少における先生の人数不足などで70kmコースの実施は難しいのではないかという議論が重ねられたようだ。その後、生徒へのアンケートにより70kmに挑戦したいという生徒の意向や、伝統を存続したいという保護者やOBの願いの中、最終的には35kmと70kmの2コースが復活した。各社新聞でも報道されたが、学校行事としては教職員だけでは運営に限界があり、保護者や役員職員の協力もあって念願の開催となった。

このような内容のコラムを執筆しておきながら、私は弟子屈高校の出身者ではありません。ですので、強歩遠足を経験していませんが、小学校高学年の時に一般参加で35kmを完歩しています。思い出としては、すごく疲れて大変だったというイメージはありません。逆に友達とおしゃべりしながらのんびり歩いたという記憶が残っています。中でも鮮明に覚えているのが、休息所(チェックポイント)で配られた梨がものすごく美味しかった。こんなことしか覚えていません…。しかし、当時の写真も数枚アルバムに残っていました。

そんな私の経験談ですが、保護者となり長男は70km、長女は35kmを完歩しました。そして今年、次男が2年生になって初めて70kmに挑戦しました。本人的には35kmを選ぶ余地はなく、即決で70kmコースを選択したようです。しかも目標は先頭集団でゴールすることだったようです。

当日は夜中1:30に学校集合、2:00に出発し、摩周湖を經由して朝までに川湯温泉駅に到着予定という経路です。その後、35kmコースチームと合流して同時に出発。各関門(3関門)に規定時間内に到着し、再出発を繰り返しながら、ゴールの弟子屈高校に13:40~17:00の時間内に到着できれば完歩というルールのようなようです。関所を時間内にクリアできずにリタイヤした生徒もいたようですが、1年生~3年生までみんなが初めて経験する『弟子屈高校の伝統!強歩遠足』を体感したのではないのでしょうか。

また、この強歩遠足の様子はYouTube「弟子屈町公式チャンネル」にて配信されていますので、どうぞご覧になってみてください。



教育委員コラム

Column of the member of the board of education

No. 34

2022/12

発行／弟子屈町教育委員会
 教育長 岩原 勝行
 教育長職務代理者 金井 秀明
 委員 菅原 誓之
 委員 吉田 一徳
 委員 宮田 昇子

各学校で公開研究会開催される

教育長 岩原 勝行

町内の全ての学校で、11月から12月にかけて公開研究会が開催されています。11月15日には町教委の学校教育研究指定校として、和琴小学校で「主体的で深い学びを実現する学習課程の創造」の研究主題の下、国語科「読むこと」の授業づくりを通しての研究会が行われました。

自信を持って自分の考えを伝えるための語彙力の向上について、町内の先生方が特設授業を見学した後、助言者の意見も参考に、活発な話し合いや情報交換が進められました。今後の各学校の授業改善、子どもの持つ可能性の向上につながっていただきたいと思います。



秋の読書（習慣）

教育長職務代理者 金井 秀明



写真の上段に置かれている本の冊数は53冊です。これもも上回る月に60冊読破を目標にしている小学6年生がいます。えっ！と聞き直してしまいましたが、自分の持っている図書カード（最大10冊まで借りられる）では足りず、学校が持っている図書カードも利用して本を借りています。数が勝負ではありませんが、自分に60冊/月というノルマを課して実行することは凄いことだと思います。読むことは知識の根本であり、人間に与えられた特権だと思います。映画などの映像も素晴らしいですが、ベストセラー小説の映画化で、主人公が自分のイメージと違うとがっかりします。試験の文章問題などを読み取る力も、本との対話で鍛えられるでしょう。頑張れ毎月60冊読破！

移動教育委員会での給食

教育委員 菅原 誓之

10月26日、川湯小学校にて移動教育委員会が行われました。毎年、年に2回行われるのですが、コロナ禍で中止されていて、久しぶりの移動教育委員会となりました。



この委員会での楽しみは、教育懇談会後の給食です。この日のメニューは筑前煮とモヤシのサラダ、小松菜と豆腐の味噌汁、白米、牛乳でした。野菜がたっぷり栄養調整され、大変美味しい給食でした。

ただ、毎日弟子屈全校で数十本の牛乳が廃棄、かなりの残食があるという報告も受け、今一度『食育』に立ち返らねばと思いました。

弟子屈小学校学習発表会

教育委員 吉田 一徳

すっかり木々の葉も落ちて冬目になってきましたが、そんな空模様の中で弟子屈小学校の学習発表会が行われました。

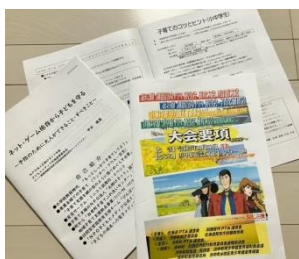
本年もコロナ感染対策で低学年と高学年の日程を分けて開催され、参観も各家庭2名までと制約下での発表会でしたが、子供たちは練習の成果が発揮できていたと思います。

まだまだコロナ収束という出口は見えませんが、親と子どもたちの思い出のページを増やしていくためにも、なるべく多くの学校行事を元通りとはいわなくても開催してほしいと思います。



3年ぶりの釧P連研究大会

教育委員 宮田 昇子



第62回釧路管内PTA連合会研究大会浜中町大会が11月13日に開催されました。コロナ禍で昨年、一昨年と中止になっていましたので、実に3年ぶりの開催。Zoomを利用したのオンライン開催で、60名程が参加していたよう

です。私も参加しましたが、北海道教育庁釧路教育局から「子どもの望ましい生活習慣・学習習慣の定着について」と題して情報提供があったほか、NPO法人お助けネット代表の中谷通恵氏が「ネット・ゲーム依存から子どもを守る～予防のために大人ができること・すべきこと～」をテーマに講演を行い、非常に有意義でした。

コロナ禍も3年目。ウイルスとのいたちごっこの中、様々な制限が少しずつ緩和され「入学以来の初めて」を経験した児童・生徒の皆さんも多かったと思います。「初めての文化祭」「初めての観客有の体育祭」…。

コロナ初年度に入学を迎えた高校3年生や中学校3年生は「初めて最後」となった行事もあったことでしょう。コロナ以前は当たり前であった「先輩たちの姿から学ぶ」こともできず、1から作り上げることはなかなか大変だったと思いますが、その姿を先輩たちが目に焼き付けてくれていると思います。新たな伝統が引き継がれていくことが楽しみです。

(宮田)

編集後記